

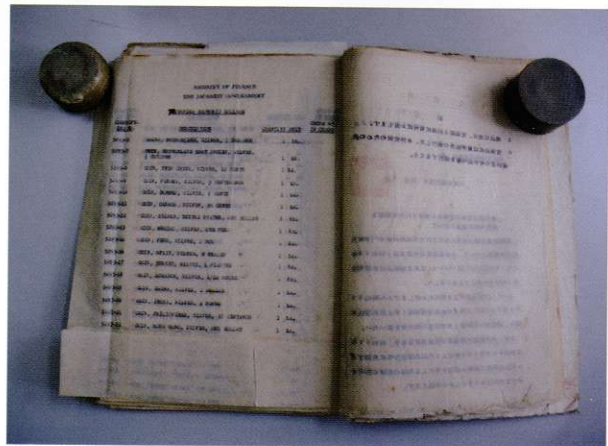
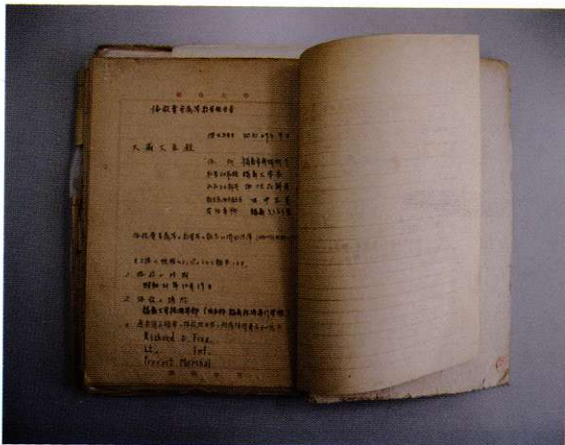
福島大学貴重資料集 第2号

Fukushima University, Material Report, no. 2, March 31, 2011



目次

- 旧福島大学経済学部商品館(博物館)所蔵の古金銀貨・外国貨幣標本 (2)
- 行政政策学類考古学研究室発掘資料(福島市上条1号墳など) (3)
- 福島県師範学校郷土室収集の版木 (4)
- (株)横浜シネマ現像所および(株)日本電波ニュース社製16mm, 8mmフィルム (5)
- タイガー計算機 (6)
- イワキアブラガヤ標本 (7)
- はっつけ地蔵の謎に迫る (8)



旧福島大学経済学部商品館(博物館)所蔵の古金銀貨・外国貨幣標本

占領軍によって1946(昭和21)年10月19日に接收され、その後1952(昭和27)年に一部が返還、1959(昭和34)年に未返還部分の返還請求、1962(昭和37)年に残りの一部が返還されたという歴史を背負っており、その経緯についての関連事務文書および一覧表が存在する。

- 資料点数 約50点
- 保管場所 福島大学経済経営学類総務係内金庫(経済経営学類棟2階)
- 参考文献 昭和27年8月5日法律第298号(接收貴金属等の数量の報告について)

執筆: 菊池壯藏(経済経営学類) 写真: 黒沢高秀(共生システム理工学類)



行政政策学類考古学研究室発掘資料(福島市上条1号墳など)

福島大学に考古学担当教員が着任して実施された1992年以降の発掘調査により得られた資料。大きく、行政政策学類工藤雅樹教員による岩手県の平安時代防御性集落資料(子飼沢遺跡, 暮坪遺跡など)と、菊地芳朗による福島県古墳出土資料(上条1号墳、庚申壇古墳など)に分けられる。資料リストがほぼ完備されている。

資料点数 数千点

保管場所 福島大学行政政策学類棟 考古学研究室

参考文献 福島大学考古学研究室(編)(2006)上条古墳群1. 福島大学考古学研究室, 福島.
 福島大学考古学研究室(編)(2007)上条古墳群2. 福島大学考古学研究室, 福島.
 福島大学考古学研究室(編)(2008)庚申壇古墳1. 福島大学考古学研究室, 福島.
 福島大学考古学研究室(2008)福大考古学の20年. 福島大学考古学研究室, 福島.
 福島大学考古学研究室(編)(2009)庚申壇古墳2. 福島大学考古学研究室, 福島.

執筆: 菊地芳朗(行政政策学類) 写真: 金田拓也(行政政策学類)



福島県師範学校郷土室収集の版木

福島県師範学校郷土室で集められたと考えられる版木。昭和7年の記録あり。
福島市近辺で実際に使われていたものと思われるが、詳細は不明。

資料点数 12点
保管場所 福島大学附属図書館保存書庫
参考文献

執筆:小椋正行(附属図書館)

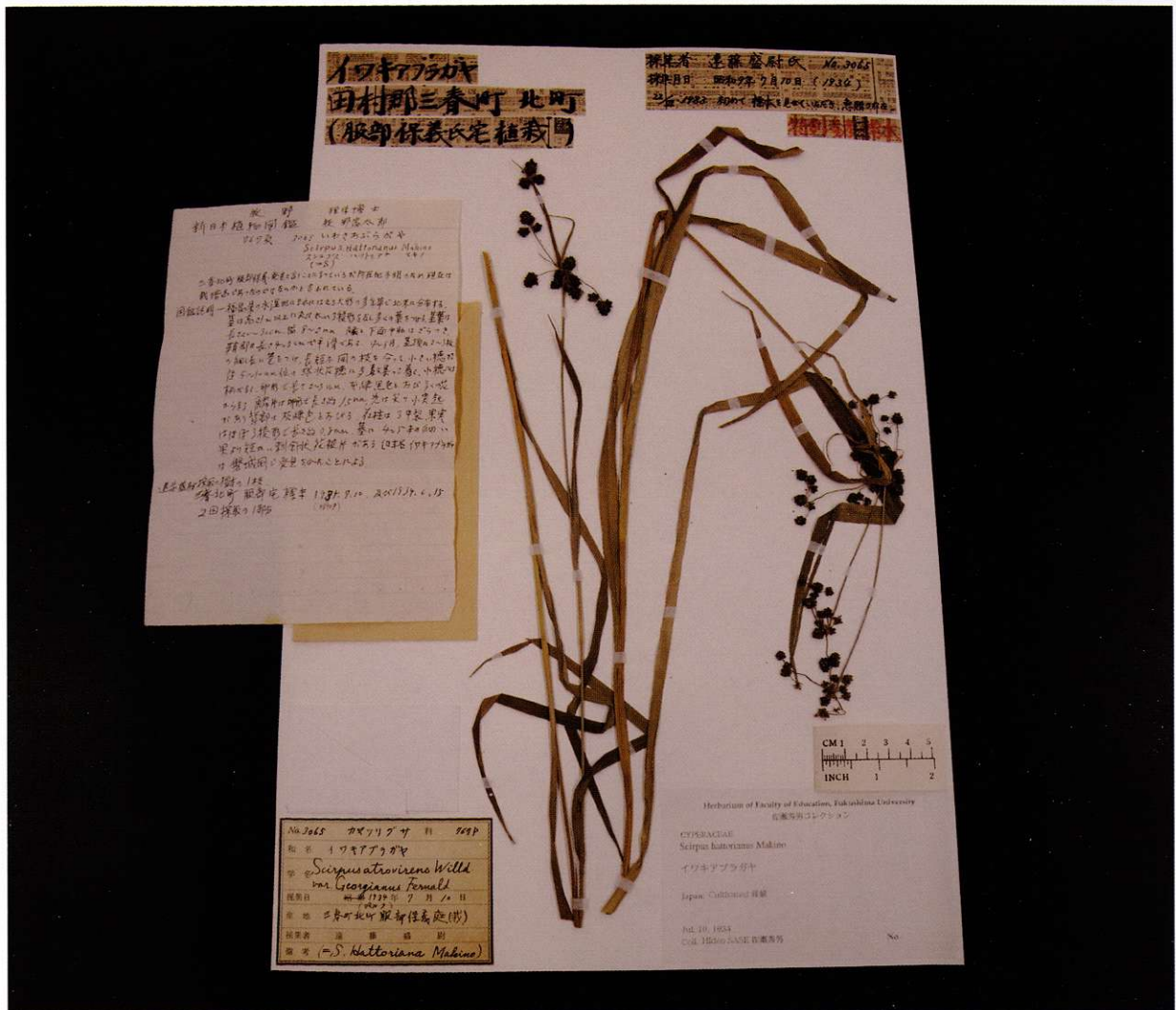


(株)横浜シネマ現像所および(株)日本電波ニュース社製16mm, 8mmフィルム

1点は「原発はいま」というタイトルが手書きで書かれている。(株)横浜シネマ現像所(現(株)ヨコシネディーアイエー)で作成されたものである。他の3点は「子どもたちの昭和史」というタイトルが手書きまたは印字されている。(株)日本電波ニュース社で作成されたものである。いずれも、年代等は不明である。

資料点数 4点
 保管場所 経済経営学類P-1 室(経済経営学類棟2階)
 参考文献

執筆:小沼康治(経済経営学類支援室)



イワキアブラガヤ標本

イワキアブラガヤは、1925年に耶麻郡磐梯町大寺発電所付近で服部保義によって採集された標本に基づき、東京帝国大学理科大学の牧野富太郎によって1933年に発表された。しかし、その後1939年に磐梯町戸の口原で採集されたのを最後に、イワキアブラガヤは日本で見つかっていない。そのため十数枚の標本のみしか残されていない。当該標本は、その中の1枚で、三春町の服部保義の自宅に栽培されていたものを、植物採集家であった遠藤盛尉が1934年に標本にしたもの。遠藤より譲り受け保管していた『福島県植物誌』の編者の一人である佐瀬秀男の遺族から標本室に寄贈された。

- 資料点数 約1点
 保管場所 福島大学共生システム理工学類生物標本室(理工学類研究実験棟7階)
 参考文献 Makino, T. (1933) A contribution to the knowledge of the flora of Nippon. J. Jap. Bot. 8: 43-46.
 佐瀬秀男(1983)イワキアブラガヤについて. フロラ福島 (2): 5-6.

執筆: 黒沢高秀(共生システム理工学類)



図書館脇の4体の石仏は「はっつけ地蔵」と呼ばれている。処刑場のはりつけではなく、書状をはりつけた、と名前の由来を説明する看板が脇にある。郷土資料や入試広報の大学案内にも同様に紹介されてきた^{1,2)}。これらの記述の初出として確認できたのは文献(3)である。この号では頭巾と前掛けを着たはっつけ地蔵の写真が表紙になっている。

石仏の名前の由来はさておき、これらの石仏は誰がどのような思いでつくったのだろうか。4体の石仏を個別に見ると、向かって左から次の通り。(A)蓮華座に合掌座像。蓮華座の下には方形の台座。首にセメントを用いた補修痕があり、頭と胴とで材質が異なる。(B)立像レリーフ。右手に錫杖、左手に宝珠。

自然石台座。台座との間にセメント。背面に刻字「お久地蔵菩薩 元禄五年十月十四日亡久，昭和九年二月十四日，建之字六斗内 尾形ツネ」。(C)合掌立像レリーフ。台座は2と同様。背面に刻字「文吉地蔵菩薩 元禄五年九月十四日亡久，昭和九年旧二月十四日，建之字町長南スイ」。(D)合掌立像レリーフ。自然石台座，石仏はすこし傾く。表面向かって右に刻字「道芳貞心信女」。向かって左の年号の刻字は欠けており判読不能。おそらく墓碑。

(C)と(B)とは元禄5年に亡くなったそれぞれ男女のために没後240年の時を経た昭和9年に建立されている。(C)の施主長南スイの居所「字町」は現在の若宮だ。ここを宿場町として整備するために古浅川と六斗内から1652年頃に移り住んだ長南氏末裔が今も若宮に何軒かある⁴⁾。地域の方々のご協力で，長南スイは若宮の女性で，昭和29年に81歳で亡くなっていること，(B)の施主尾形ツネは六斗内に嫁いだスイの実の娘であり，昭和38年に68歳で亡くなっていることがわかった。大正11年生まれ若宮在住の長南睦男氏は地蔵建立のとき12歳だが，そのころから法華を信奉した母娘二人が熱心にお題目を唱えていた姿を覚えておられる。現在も松川の立正院が盂蘭盆会で水向供養を毎年行なっているほか，地元の方々が花や食べ物を供えている。立正院の話では「法華宗では地蔵を建立しないが，二人は当時地域に流行った地蔵信仰に因み，先祖を供養したのではないか」とのことである。

他の2体の石仏(A)(D)は(C)文吉・(B)お久地蔵よりも古く，(A)が最も古い石仏のようだ。なお，理工学類の長橋良隆先生によると，材は(A)の方形台座を除き地元産の岩屑なだれ堆積物由来の火山岩とみられるとのことである。

- 1) 松川の伝承と方言編集委員会(編)(2005)松川の方言と伝承，歴史春秋出版。
- 2) 福島大学，福島大学案内。
- 3) 福島大学広報委員会，1985，吾陵ニュース No.55。
- 4) 中村就一(1987)長南氏の研究，全国長南会，pp747-755。

福島大学貴重資料集 第2号

Fukushima University, Material Report, no. 2

発行日:2011(平成23)年3月31日

編集・発行:福島大学貴重資料調査検討会

黒沢高秀(世話人)，岡田努，笠井博則，

菊地芳朗，澁澤尚，難波謙二

住所:福島県福島市金谷川1

福島大学共生システム理工学類内

郵便番号:960-1296

電話:024-548-8201

E-mail:kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp

保存すべき貴重資料をご存知の方は，お近くの検討会メンバーにご連絡下さい。